

五
次
之



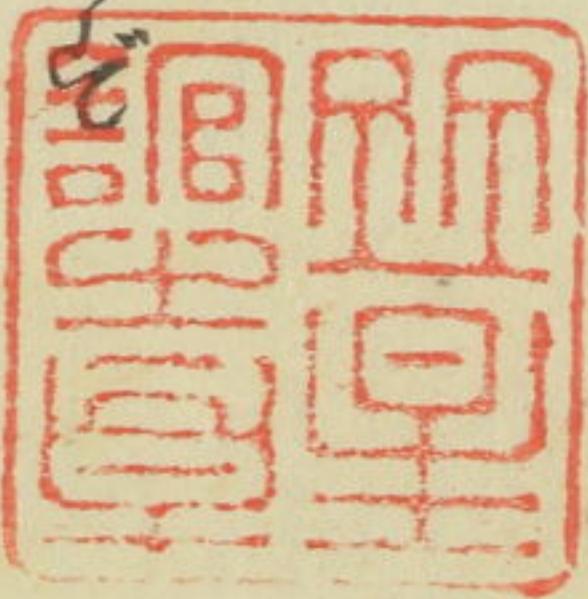
2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4

古今和歌集卷之十四

五
五

影す

よみへりゆせ



○上 みちかくのりきり乃はけ花づとからくふゑやまくも

○上

カワぐニキヨウトカウキタバカリノ入ヲ ヨカライツマデモエシウ

只ウテ月日ラタテルトデアラウカイ

をえどハ立タリ久紀ともおもひしもあつぐときくべうらら

○一度モキタゲナクハヤウニエシイモアルトイアタガナクバ

タドヨソイニサテ居ルガリデサアラウニト只ハル、

ほゆき

三
二
一

○一二
ナカニテモタケナシハヤウニシトムカイハヤウハラマニ
ヌルシム

後尔之死也

君といへど見えや続つてどまれよ、
君の心をづしきれりゆる事無矣
○勇士ノ山ノモエルハシヤウチノコデメワラシイフモナイガワニモオヘノコ

○ワシヤモウ只フ人ノ度ニモ元エルトハズレマイヅ
キツウヤソレタオモカゲデハゾカリイ身ヂヤニヨウテサ

伊勢

○二 ドウゾ又ヒヅカヘシテ來テはきリニサアハウワイ サテモ
マアノヨリオホイツカナ

○上 ドウゾく只フ人ニ存分ニハラーフイ 逢ハレルヤウニシタイフカナ
れる事多ハ、熟食の菜、生食の菜も魚類もな。よ、菜と
曰ふ。此生食の物をタカヒト、生食の物をハムグリモド。

春の花あれば
かくのうふをすれども、わが身

○鹿ノタナビイテアル山ノ桜花ヲ見ルヤウデズテモ_ク見ニモ
サテモアアカヌ君ニヤツカナ

ぬうやま

ムをぞつとあすきゆと思ひぬうそものうや尋_クがるべき
○心トエモノハムリナラ思フ物チヤトサ只ハルカウシテ_ミテ居十ガラ
モヤツハリ_ミシイワイ_ミテ居十ガラ_ミシカラウハズカイ_ミテ居
テハ_ミシカラウハズハナニ_ミルニ肉_ミフ

か毛_ミとてひ後_ミとばら_ミと_ミヌモ_ミのおり_ミゆ_ミかる
○_ミシゲル_ミモ_ミキハ_ミラズ枯_ミルモノ_ミヤガ_ミロシガ_ミ思_ミフ人モ今コソアレ
後ニハカレテ_ミテアラウニ_ミサウニラバガ_ミセズニ_ミモ_ミ

友_ミノヤウニ_ミルハレルコトカナ

よみへ_ミみを

花_ミ川_ミうちハ_ミ聞_ミか_ミせ_ミうとも_ミひ_ミそめ_ミじ_ミハ_ミま_ミれ_ミ
○アスカ川_ミハ_ミ聞_ミか_ミヨウカルトキ_ミト_ミ世_ミる_ミ人_ミ心_ミモソニ_ミ物_ミチヤトキ_ミチヤ_ミガ_ミタ
ヒ_ミヤウチ_ミ世_ミ申_ミチヤト_ミモワハ_ミタ_ミビシメ_ミアラウス_ミバ_ミシ_ミモ忘_ミハズ_ミイ

空_ミて_ミほ_ミき_ミさ_ミいの_ミお_ミは_ミ合_ミ乃_ミく

思_ミて_ミよ_ミね_ミの_ミや_ミ秋_ミと_ミ色_ミも_ミう_ミぬ_ミあ_ミハ_ミ行_ミく_ミき
○フウタ_ミ木_ミモ_ミ系_ミテモ_ミ秋_ミハ_ミ色_ミガ_ミカ_ミル_ミお_ミチヤ_ミ秋_ミラコ_ミシ_ミテモ_ミ色_ミノ_ミカ_ミラ
ヌ_ミ物_ミハ_ミワシ_ミカ_ミス_ミヘラ_ミ足_ミト_ミ云_ミけ_ミ羽_ミカリ_ミチ_ミカ_ミナ_ミアラウ_ミ何_ミハ_ミカ_ミル_ミト_ミテモ_ミ

けワシ_ミガ_ミ羽_ミカリ_ミハ_ミカリ_ミハ_ミセヌ_ミズ_ミエ

チ_ミサ_ミア_ミム_ミる_ミ

卷之三

ゆむすら小夜かゝるといりや、あくまうひ宿の橋町
○今夜モサラトイテフトニア上ヘキルモノ、片一方ラモテ
居レデカナアラウ 宇治ノ橋町ガサ おまえモ一時の元いりぐ

又ちくちくよもやひめ

君やこそひあやゆくむのつまひ小まちのねテもさひ御よりを
○君がクルテアラウカワシガ行ウカト ハラクス合セテ居テ 戸モサズニタワイ
そぞんや

○オツケシヘテラウトエコシタバッカニ 久月ノ末ノ夜ノ長イニ サテマツ

ホドニマツホドニオソイモウ月カヤモウ出タワイ 級未モセナタ有四月
廿待タニタニ どサ待ツ人ハ撫モク 来ヌカナ コハマアドウタコジ
よみ人与ヅバ

○今夜ハキツウ月ガヨウゴザル月カヨウゴザルトスノホヘシラセテヤツタラビテ六
ナトゴザレト云テヤルモノニヤ ドレヤシラセテヤラウオレモアリ

今夜ハキツウ月ガヨウゴザル月カヨウコサレト人ノエヘシラセテヤツタラビテハ
キトゴザレトエテヤルモロシヤウチモノキヤ ドヤシラセテヤラウオレモアドリ
ヨイ月チャニヨツテ モレワセモセウカト 五
月右ナリトヨリム月左ナリトミキモリ泡ナリトモズ
きモリム也. あ念ナリヤのとミモリ. 甲. ゴロウ. あ念のをもの
とかまきナリ. こもアハシモトウス. トウヨ. トウリ.

そとあんをこゝろこどりてけり。まごはお清きみをもひ。
ちことどハ祕をつとつじこりきれいをうかゆふやくとと
○君ガコズバ、イワミテモ闇ヘモ、イルトイカウニテ外ニ立テ井テ髪ヘモ
ガオクトニテモ、イトヒセヌヤツリコ、テ待テ居ヤウ
あ体野けなけの小森、あをかり風とあどどもとてし
○宮城野ノキアラノ小森ノあががキサニ風ノライテクルヲ待ツヤウニサ
ワシハ君ヲマツワイン
なけ、なごむらめちをぎりひめ
せうりしきるふなびきやまとめて、ほふあけまじり
のと、も小茂小はまうをみおれり小い本森みはうとど又小もづ
てりよ何のとぞ、ちひきとつすもひべ。

あひる今もアドアリふぐのかきかへまつてアリ
○ア、、ゑシイ ドウゾ今モキタイモノヂヤ 山中ノ家ノ垣ニヨウ候テ
アルアノヤマトナデシコノヤウナカアイラシイソノコニサ
はのあめくふと忍ハビシテアリミタムキシバのミトモ
一 伎モホカノミハ思ヒセヌ タモキタイクトソレバツカリラサ
二 ビヤウ
チワリヤヌテ居ルワ とまふあひのむへくわるふいわんとふ
四 とまふあひのむへくわるふいわんとふ

あきしのむやまゆふハケ
ぬうれうもくじてきよ
トムラウシヤ
○上 ドウヅ アニナシニ又アウヤウニシタイコチヤ

ぬりやぶ

ゑーとはあづめづけ、ひとがひきぬとふつべうしるふ

○ゑシイナド、云名ハタレガツケタテギヤヤラソニキマハリドナイ名ヲイ

ハウヨリハナカナシ死ヌルトサスグニキタガヨイワイキツウゑシウ足フ

トキニ六実ニ死ヌルヤウナワサ

トミヘーモリバ

ミトーやのたけの、乃夜ちと乃歌ふ只ワガシヒメヤモ

○上トドホリニ亭ヲナラワガキヤニヨシタハカイトモノイデハナイワイン

かくこひきゆくいあもロヒカシムのうらびぬさーかりけふ

○サイシヨカラサ後ニ此ヤウニゑシカラウねヂヤトハワシモ足フタテギヤ

サイシヨノワジガ心ノウラナヒカヨウ合タワイナ

天のゑゆとじりく形の御も思ふかうとぞさくものには

○神ナリト云物ハヨミオソロシイ 何ニモタマラヌケシカラヌイキホヒナセギヤ

ケレドソシテモノノ忌ヒアウタ中ヲバトホノケルモノカイソニテヰナリサヘト

ホノケハヤヌナバタヒラダガアツタテモノシクテハナイワニヤ

○一二ホデハドウテミガヒヤウニ忌フ人ニ名ガ立テイロクトウワサ

ガシゲウナルデアラウ

けくへゆく人あをせみくのあよみく称
ヘトジヘリとおむす

あらのうじまは魚ばかりしてもあくとも泥むとあら

○タトヒ世引ノウワサハドノヤウニシテウゴザリセウトモ 一二 イツデ
モワタシラ絶ウトハ忍ヌテトサリースナ

アリウトハモレテ、さえきもざるといふ。し。
けみハシ一かよみこすりとくうひ

黒人乃あくいあやめあぐくとも望ゆく考ふや、まめや、
○人ノウワサラハカツテ 四 君ハトホノイテイクガ 一 所デウワサハタト
ヒミノせノ弟ホドシゲク庄 オレガ意、ズ居ヤウカ ユカラトテモアハズ
六オクマイ 鮎初流シテ、お笑きこそぞ

若原敏り、船にねありむの船の妻おうりの女と

ひあうとてぬとつうきりきとをふ、大ツケ余リハガ アメフリトヲ
デカケニク、ナエシバシス合セ居ヤハアモリ成る事、アヘンヒトコトナリ、余をきて女

ふうりてよみりき。左原業年、船に

かどくふ男ひかむびひがごミオレあハアリ、ぞきみわろ

○ワタシガ「ラジニセツニ召ステトサルヤラ おもむきサウモナイヤラ リコノホドハドウモ
キ、冬、ジガタサニコヨヒ、兩デソレラ考ヘテアキ ソレデワニガオノ仕合セ
不仕合セモシルヂヤガ 四 ソノあハサヘヤウニ 五医ト大ブリニナリース
コニデワニガ不仕合セモシレタチヤワイナ けぬテワニガ身ノ仕合不仕合ラ
知ルトヤスワケハ、アタミ今ノはアノ無リナバ、けぬが止シダナラぬ出
ガアラウシヤツハリツタラぬ出ハアルマイヂヤ スヤサヘアワニガ身ノ仕合

不仕合ノシルニヤワサテ うどくふとつ肩。ほぬみす
あくべ。うとハ信云ハ海切。とつすわ。おと。まづね。と。お
の多き。よしき。さておうに。おゑ。おと。もと。つま。うど。
おの殿。おき。ばつ。おと。又。おの。おき。と。よ。えき
あだ。お。お。お。深く。切。う。と。う。え。な。か。お。か。う。お。ま。う。
その。や。も。此。洞。を。あ。お。お。う。ど。も。お。け。ま。考。へ。念。を。て。經。
ゆ。女。の。形。う。印。せ。射。ほ。と。と。う。さ。ざ。め。び。り。き
ま。と。そ。ひ。て。と。み。き。し。ま。と。み。人。一。う。ど

大。ぬ。き。れ。か。く。て。あ。ゆ。く。お。れ。う。ぬ。と。お。ア。び。く。と。れ。色
○後。所。天。麻。ア。タ。人。が。手。二。引。ヤ。ウ。ニ。オ。ハ。近。イ。コ。只。方。ミ。カ。ラ。ヒ。ツ。ハ。ル

石。が。多。ウ。ち。タ。じ。バ。ソ。ビ。ス。レ。ケ。ビ。ワ。六。ド。モ。オ。マ。ト。れ。ミ。ハ。サ。エ。イ。タ。サ。ヌ。ワ。イ。ナ
か。へ。ー

な。を。む。の。お。に

か。や。ぬ。き。と。ク。あ。下。そ。た。れ。流。れ。て。も。つ。ひ。よ。う。際。あ。つ。て。そ。よ。わ。を
○サ。ア。ワ。シ。ハ。ソ。ヤ。ウ。ニ。リ。ベ。が。多。イ。大。ヌ。サ。ギ。ヤ。ト。名。ニ。コ。ソ。タ。テ。ラ。レ。タ。レ。ま。大。麻
ハ。川。ヘ。尾。ヒ。テ。ユ。ク。ケ。レ。ド。ド。ユ。ヅ。デ。ハ。流。レ。テ。ヨ。ル。石。ノ。脚。ハ。アル。ト。云。ノ。ニ。ア。ニ。マ。リ
其。ヤ。ウ。ニ。天。ヌ。サ。ギ。ヤ。く。ト。云。テ。ト。サ。ル。ナ。ワ。レ。ギ。ヤ。ト。テ。末。デ。ハ。ド。ウ。デ。ヨ。ル
所。が。ナ。ウ。テ。ハ。サ。ソ。ヨ。ル。石。ハ。大。ヒ。ヨ。リ。外。ニ。ア。ロ。カ。イ。

歌。あ。ー。ど

よ。く。人。ま。ー。ど

次。テ。の。の。よ。お。お。や。や。く。煙。見。ば。つ。み。空。ひ。ぬ。方。に。な。り。よ。り。と
○ス。ト。浦。ア。ノ。塙。ラ。ヤ。ツ。煙。ガ。風。ノ。ツ。ヨ。サ。ニ。ワ。キ。ノ。方。ヘ。ナ。ヒ。イ。テ。イ。ク。ウ。ニ

ワジガ忍フ人モ 忍ニモヨラヌ人ノ方ヘナビイテイタワイン

五カづくもよ木の下ふありぬまがだえぬ人の多く ばもし

○オーハテウド カガラノアノ木ヘモ朱ヘモハカルヤニアチユキト

開キヒナサル石ガ方ニテケタレバ ワジガ方ラタ六ナサラライデモノソ

タヌ心ガナレウレシイモナイ

あがちとてうがまとーそう新ひだりとふゆうとるす

○夜中ニアレ郭スガツイコ、テサ 叫声ガスル イツモトニ黒ハトコノ里方計
スガ其里ヲバ今夜ハトマル一夜歟シテ メツラシイコチノをテ廢タトミル

アツユデ子テ井テ叫聲ギヤ あれから朝子のうみうど、うふ入る

も、寝るまへ。意のたとへしてハ、おもむすすりつゝあや。

ゆきがて、ゆく代鳥のとふは、うい、ういと、暮れ
万葉ふい、よれ、あと、お、宿ふし、影のうと、とう。

ロで人をあとのとぞとに身をけうつて、とを身あとふーと

○イヤモウ人トキモノハロッカリナサ物ギ三ウワリヤスイハロトキツキチガヒテサ

月もと人ゆきよめうせば、うぐひ人のうはゆふうめ、かくいし

○誰デモ囁ハ嬉シテラ云テクレケド皆ウリデ子カラホミハナラヌカウム

コトニセイ世申デアラウナラ人ノ云テクレガドホドウシイモニアラウジ

竹もと思ふわづ今きふあがまとをうれらくのうじ

○ウソキヤガトハ只ヒナガラモ コドオミ立アテ居に入ノ云ナシヤ ワジヤヤツ

リツヲ起ニ忍フテ居ルワインタ外ニコトナ人カアツタトテモ 今サラ心ヲ

ウツニテ 誰ヲホシハセウゾイノワニヤトツトサウ云ハナイ

素性は師

秋風ふぶ乃とほどのうづうへぞ人乃こうゆもいどとぞおもよ

○此ゴロノ秋ノ風ニ山ノ木ノ葉ノ色ガカツテキツテイクヲズレバ

人心モドウアラウブ カリハスイカトサキヅカヒニ只ハル、

宦まほきさのやなれみ食のう やるものづ

様は勢りきけばうわー まえにえうきくや人のがむと思へも

○様ノ聲ヲキケバ モウオツケ秋が近イト只ハ 駕ミニ豆ノ人ノ心モ贊
ガ立テ 乎サジガはまく反衣ヤウツウスラモアラウカト只フノテ 悲ニイワソ
餘材絶わぬうづくし 反衣トイテハ 様のねえの極とかひて と

うそくといそん料の枕羽のそ オヌ流ニシホウ歌をだ

歌をうづく よもぐく歌を

うつせとよのくどのかびとバモモれぬかとぬだる

○一世弓ノ入ノウサガシゲハワニラ忘レゼヌナガラ オツカラトランクノデア

ラウト思ハル、又スヲ忘レゼヌナガラ オツカラトランクノデア

あうでうと急レモキハモ歌モ歌先立バ ふ後のみまく歌とふ

○只フ中ナラタカニアキノコヌ内ニサハナシテシウコチヤ ドウシテモ久シウナ四
アキノクルナラヒナバ 四セメテ今レタガヒニアカヌトコロヲナリ庄 後五ヒ

ダニグサニシテサ ハヤアキガキテカラハシテハラシニモ只ヒダレグサモナイ

ワサテ

御材ヨモテレグのみの絶ヨ。

コトニシテナリ。ふのつくづく。かまへて
○コチノ思フヤウニモナイ人ヲ思フテハヤウニ心ヲ苦シメウヨリハ、ワズヒテニハゾトハ
ハヌドウヤラハボソウカツテ。今マデヨリハ、サキツウセイ。サウルフ心ガ付カラニテ
ハヤアケヤウニカナヒテハトテモ忘テミハレ、トデハナイ。ム林云々。トドハニ
わざとせひあとうじ。むち新う人の秋ノハシモヒトとをば
○忘テキハト只が歴スオレラ恨ムナヨ。新公ノ秋ニラヌサキニ早ウドニカイン
デシマウヤウニオレモノノ秋リハアバウトハ只ハヌ。ム林云々。のちとてよもかて、
ムえぞゆく。志季の門アヨミ。みまばむ。わくとや人のおりとむ
○タエズ流テツヒニヨドダヘイナ。花を川ノヨドダヤウニオレガモニタゞくサレ
ワカヘテモアツテキハヌ。ガラタラナゲニチアルヤウカノ入が豆ウテカナアラウ

口のタ。一矢ぶるあるとあらう。つきて。園中。きまわぐ。あわじや
の。どり。れおら。あらう。むとつ。たまとたまると。けよ。うきを
うき。と。ば。ね。と。ア。万葉のうれ。例。あく。あく。と。や。そ。ハ。後。う。の。り。ぞ。
は。う。く。の。う。く。ね。う。と。お。う。づ。ふ。く。が。う。

○川のよどいとく。ハヌク。あめ。と。流。きて。あく。れ。あく。あく。あく。あく。を
○川。川。浅。イ。ホ。コ。ソ。ザ。ワ。く。ト。流。ハ。タ。モ。ナ。底。チ。カ。ナ。源。イ。闇。ガ。サ。グ。物。カ
ケ。戻。ワ。ヤ。未。モ。ウ。イ。ツ。マ。デ。モ。ト。思。フ。原。イ。心。ギ。モ。ノ。ナ。ト。ト。コ。ホ。リ。ガ。古。ゾ。イ

素性は傳

そひあき闇。やも。う。ぐ。川。の。浅。き。せ。ふ。ア。と。の。ぼ。り。と。て
○山。川。浅。イ。ホ。コ。ソ。ザ。ワ。く。ト。流。ハ。タ。モ。ナ。底。チ。カ。ナ。源。イ。闇。ガ。サ。グ。物。カ

涂イ闇ハケツサウギハセヌ テウドソシナモノデ ンジツニホウ足フスハロヘタシテ
何シトモイヒハセヌ レニジツラニウチアカトエハ ソヤケツ心儀ニアダ信ヂヤ

よも人あくよ

キミ歌わせむる心が先に見ゆく足ひー おそれまこととせんや
○一二 サインヨカラ 涂ウ足ヒツメタ心ラ ドンナフガアツタトテ忘レウカ
ワレヤ イツデモワスレルトデハナイ

かくはたたき

みちのくおあづからぎし汎ゆゑふみれむと足よあ形くあくふ
○一二 タニユニ外心ヲチラサウブ 来ヘヨリ外ニ心ヲチラスワシキヤナイグエ
あすかぢぢの流歌風より一キナフコト。

よも人あくよ

思ふうといふをよとう秋風小野びく淺草れをあくふゆう
○ワレハコホドニ涂ウ足フニマダけウヘドウセイトキーデ 三四 人ハ心が
ハリノシターブ コホドニ足フヒウヘハモウドウモシヤウガナイ
ちのゆうふううおりめぐちよもくふや秋のね葉うのぞ
○人ハアチヤユチヤイロニウフルニアラウケード 心ハれ葉ノヤウニ色ノ見
エル物デハナカバ ウツロウノガシヌ 緑枝初の流歌より一キナフコト。

小モ小町

うふれまじ里のあくふわくおふうりみひとのとく人のりくも
○あさノアマノスム里ノ業内者ニコワ浦ラズヤウトハニバウハズノナレワ六

ワシナ浦ノ案内者デモナイニ ドウムフデウラミヲ ホウウラミヲ
ホウトバウカリヒタモノ人ノイフヤラ

モヒツケルをむす

モリの朝モ一ひともあむうちればめすとまうイ経文をばむれど

○空ノクモツタ日ニハ 人ノ朝ノ有テモヌエヌヤウナモノデ ソレト目ニヌエコソ
セ子ワシハモニヤセホソラテ ハヤウニ朝ノヤウニチルホド早アーナレバ
人ノ朝ノ身ヲハナレヌヤウニ 心ハジヤウデウ思フ人ノ身ヲハナハセヌ

モヒツケルをむす

官もあきんぐふくもーとくうつうもひよありわくをくふ

○色ノアル物ナラバコラ ウツ古テカカリモセウケル 人心ハ色ハナイモノナシバ

モヒツケルをむす

ソ色モナイワジガ心ガカノ人ニシニコダカヌハイツデモカ、ラウトハ思ハレス

モヒツケルをむす

モヒツケルをむすひやあくもせぬ、ホトロのとを、
○久シウアヌメヅラシイ人ニアハウトテヤラニサウシモセヌニ ワシガト紐ガ
コゴロ只度モコロヨウトケル。千秋モコロ譯小サウシモセヌニニモコロ。

即ナ下段とときもせぬふとく。

カゲラム乃シモウキスルぬうもみれず人されば神モウれクハ

○一 サウカサウデハナイカ モウズワス^スタクラヰヂヤ サテモく

アナシダスラルベイゼナガ足ヒダサレテ 俊ガサコボル

又別紙をふくへとどけ、ぞよしき。小林云は集のうんづみとお小

ほりえあぐみあしを、ざのこぎくうは一人よりゑつりも

○堀江ラは來スル小舟ノイク及モ因シ川筋ラノボリトリスルヤワニワハ
マヘ方ノ因シスラ 又タキモドリノク ハヤウニイツマテヨヒシタウフヤラ

序
努力

月日
まづとゆかーと云ひ今まふもとせや床とひじもい
○ワレガ床久シウキ純テ忍フ人トキテ森タモナイユエ カナニサニシハ
海ノヤウテ 其海ノアレルヤウニアレテシウタ床ギヤニ 久ジブリテ又今サラ
主入ニ逢ウチヤトテ ツノ床ノツモツタ塵ヲ 袖デハラウタナラ あへ沫ノ
ウクヤウニ ワレガ袖がほニウクデカナアラウ

ひかく小野主うつあらわくお立はき。ふくわくあれを

○今テモヤツリ昔ニ立カヘツテ マヘ方ノ人ガ志レイ サテモくわワスレセス心力ナ
ドウヅレヤウニ志レイコニわワスラシテ 一方ノ人ノラバドウヅ忘レシマハイデ
人を志のびかあひつもソレヒグニモリルバシのあれ
わうりばさかくわうきるをりふぢめゆくときて
ドミテつクアキモ
ナミトヨウカ
思ひ出事ノきと見ハ内弓のちまとしてくらとくまめや
○思ヒダニテ急シ不時ハアノ弓ノ弓テワタルヤウニ おモ此トホリニけ門カドヲ注
テトホルト云一ラ けあノ内ノ忍フ人ハ知ツカヤ カウギヤトハシリハスヘイ
モウカヨハヌヤウニチツタバ
志のむやいすうち男もあざぞ耶リふれぞかのむか
おこせりき多ビモをとそりつをもしうもとそ

よみくわうりく

典侍藤原すらかの歌

くぬの免あーきれ紫今ハトーてもあ身ゆるまばおきとこうもし
○コレマディイロクト未だモレサウニオツキツテトセタは毎ドモ、モリ^{いよいよ}レ
モドシヤシマセウブ ワタシガ身がばやウニアカレテシウタバ 今デ
ハモリ^レヤウチは毎ナドハ^レ方ニハオキドコロガゴザリマセヌ
ゆゑもバキアマキラレバシ・うりぬとバシハミテ。

からりし

近院君のむらまうち夫

今ハとてうそこのをもうひおきておのぐねく形見どももむ
○モウハトエテカヘシテオユセタケアラ ヒロウテトツテオイテ モト
自今ノねナガラモ ソナタノ形見セヤト足フテズ^レセウカイ

歌トウリビ

よみうけねに

おほきのとハツシキモナヒラムノととふととあうと只ノも

○オーハ今デハ 每夜^レヒササル斯ガ外ニアルギヤガ 夏々^レ今夜^レヘ
ヒササレタ定メテ道ヲトリキガ^レナサツタデアラウヂヤケレモ^レヒササテモ^レス
テモヨヒヤウニドウゾ道ヲ取チガ^レテヒササレバヨサリ^レス ソニタラ餘ノ人ノ
所^レヒササル^レデモ 実ニワタシガ所^レヒササレタノカト足ヒマセウワサテ

よみくわうりく

またとひもがねともゆうめひもひでゆく泊のとみ橋
○アシバラクトヤスカラニ^レヨヒハトツテモイジ^レトセカシ リニナシ^レヤ
トリイソイデトツカハトイナセヤルハ サモ^レキユエ^レセヌ カウシニフリモキ

ツテイナニヤルアノオ人ノ馬ノ足ヲツヅカシテコチサシテクレイ門ノ前
ナ溝ノ橋ヨヨリヤ。子林云澤のにてホヨリヤトツメ河とそぞれモ。

かすらじさる勢あらきもそほく、佛得の意也。

中納言源のびくお船のあふものもまよひる緊

くみくやきりり

閑院

あほのゆけをかわづと天ぐゆきとあくともぞめ

○ワジガカモ おほノ冥ニナシテアルをちナラバコリ ナキくモセメテハ
オテヘノ近に西無ヒ十サルノラナリ凡ヤウケレ ロシハサウシテ山性朱

ナサルノラヌレサヘナラヌガカナシイワイナ

歌ふうじど

伊勢

石竹よゆぬまのうわがだりふくのくわきてえゆむ

○あくコソアレテヌエル物ナレ ワシガ足フ人ふハ左右テハナセレモ ワシガタ
メニヤウニアレテウトクニウナツタハドウニヤラ クのあくハシテうつ
ひくうめくうとく歌るこそ、毎秋あきそろし、スモと
スモハ秋のちまくつるの方にい了因のなせ方々とひえぐと

竊

ひぐりのかきやふもすまつてぐりくまくもどもくつすも

○上 右フ人ノ所カラヒアタリヘ人ハ度々来ルケレモ ワシガ方ヘト云

テハ子カラコトツテモナイ 上カハトドクニは序

さうあれ却くま

太くくへ並きすきのうくいかきもあくよどよおぐくあらじ

○ネムハエシイヘノ形えんカイ 形えテモナニテモナイニ ドウエーデ
エシウヌフタビユトニケヤウニナガメラル、コヤラ

ミシウヌフタビコトニケヤウニナガメラル、ノヤラ

卷之三

ゆまびれりとあらひもよつてりのれども
○又アフテノ形えノ物モナニセウジ　ヤクニタヌねチヤコレ
テモオレハ近シウロフカ子エカラヤスベルモナイ
　　おやのすりモソクノのむきあふいとまづびよあひて
　　ツイテキル
おらつひくわひごにおやのよあくつひくばつときく
　　キニヤカヘルトテ
ほそくとばるむめぎおきてひまほりもはまとか
つまもとちやう

古今和歌集卷第十五を絶

五条

五條のきよみのちよかへはあく下に多くふほいよハ
けであひよめりむ月のどとうつまうからむわ
くうくとふるくわくとあくまでこえあもゆでよの
トシノはま梅の花ざり小月のちよろくとる花去年ノコロ
あひくかのぬのづぶひまで月のうよふくまうでうづカニヤウジキナ月

月やけぬをやちのちがくぬゑがむくハねづけしよ

○今夜コヘ舉テ居テ元レバ月ガモトノ去年ノ月デハナカサア月ハヤツリ去

年ノトホリノ月チヤ春ケシギガモトノ去年ノモニケキデハナカサア 喜ノケ
シキモ梅ノ花サイタヤウスナドモヤツハリモトノ去年ノトホリデワタクニニモ去
年トキガウタフナニ タオガ身五バッカリハ 去年ノヘノ身デアリナ
ガラ去年をタ人ニアビイデ モ防トハキキギガウタフワイン サテモく去年ノ
春ガエシイ ニつのやハヤモヒミシミキミ結句のトヘグ
ヒヤクサモウヘヌトムホドツヌミハアモトナリ。松樹マツツキ先
トツトハ月やハアヌモハアヌ月もキモリのまゝなホ
トリツト上ちゆくせり。まづ此船のまばらちまうて。洞
あらひとくがほとく。竹材サツととくふそらー。かの
続どすのじくとてハモモとてぢりとて波のいきやひ小か

みりごとく語のひきうひをらぢつて、ぐにぎきうぞかし。

歌へらぞ

藤原歌う御はれト

花ちくひめアして下小思ひ。うちふぞくふむとゞむふりう
○内ミコリキウト思ウテモハ居タニツニアガオモイハ多々
ニナウテハ花房ノ穗ハシタヤウニオモテハテ外ノ人ガトリク
ニデキテニウタワイハシ念ナヤ 花房とむそづり伊勢
あそけうのそーのゆふそーて、竹材おふりそ。

藤原歌ひまきの歌

うふのまきう一物とまね川カワとくとく小みうとそもりも

○タヨソニバカリナテ居ヤウデアラタモラ

三

藤原モナニナニナハヤウニナレ

ソメタフヤラナジケニナジニテキジスハサテクツライモイデヤ

九河内みづ林

己がふくあば思ツじてもぐみまつやうじとせとうのこも

○サテクウイフヤオハユホドヘヲ添ウニ一人ハドタクシホドニテクニヌチ
ガ足アキリニオレラ足アクル人ガアカシソデモヤハリヤウニウイモノカラ
テスヤウニセハ男女の中どりよき。ふれまきとりア詞の譯もまきハ一首の譯
のうふぞのうくわあんばうべし。

ゆゆかく

ひさハのあまつやふもまぬかくふへきよそやど足よびハ歌ふ

○天ニ住デ居ルワシデモナイードウニカ人ハワシトホヨリニヤスフ
ヤウスニオモハル

スアムスアムスアムスアムスアムスアム
○オハモテモカヤツハリヌアセタウヌラニ入ハシタルヲライヤガ
ルヤウスニスエル 又カクセヤ一ノモジ、又カクのほーきホー
ワミヒタキシヨハナゲ核アヤ

きのそと/or/

キモカクナギム、ウミのあきやいとをれてのこととバヘンヒ
○雲モナウテ風モナイデアルシノテハヨウ晴テアルモヂヤガ オハソノ
ヤウナモノヂヤヤラ 五七人ニイトヒキラレテバツカリ一生ヲタテル カウタトヘテ
イフワケハ 懸晴ト 五九威儀ト 六〇冠ガヨシテヤニヨツテサ 哥ト云モノハ
アチナヲヨムモノヂヤナイカイノ

きみ人ト

花^アゲ^アミ^アウ^アガ^ア盛^アのあ^アま^アら^アミ^アト^アれ^アぬ^アむ^アね^ア身^アを
○一 ホカニイクシリモヨイノガアルナレバ ワシガヤウナ人カズデモナイオハ
ワスレラレタデアラウ

うきのものかひてながく浦うるばかまふのアモトをらアハドクア
○ナニ、ツケテモウイコトバツカリデ泣テクラスワシナレバ 又ラヘノタマニニ
ミエルノモ タバカリソメニロフサゲニチヨツト立ヨラル、バカリノーデコリア
ラウケレ マコトノ心ザシデ又エルノトハ足ハレヌ

いせ

あひよりひてゆうひのあゆ小やど月^アま^アく^アがおなふ

○此ヤウニ物足ヒラシテ後デ袖ノヌヒテアルムとシヤトテけ袖ヘウツリ肩
ノカホマデガ ワジガ私トヨジヤニ ヨウソロカテヌヒテ兄エルワイノ
あひふりじての後、能材モウ一ギタモヒルを「ぞ・すゞく
け角ハ・うとくかとく・うくらひうひて、同ドモうあうえ。

トミ人ナシ

私ちノでゆくもあハ私ぢあまう立がよだのも内ノ形アトリ
○參ハ秋ヨウオク物チヤガ 秋デナシニオク參ガアルツハ ゆ忍フテ夜
半ニ目ヲサマシテ居ルワジガ松カラ床ヘオキル後ノ事チヤワイ
毛のわタバ佐やきニ引をさばわシ、女まだや小遣キヤモキマシム
○上道ノアヒダガキイユエカシテ ハテガタグ由サラヌア、オソイフキヤ

上タガミと能材のモー。あ秋え、四の夕は暮、まだかねる私や、どうもとふとれ
かうの宿のヨカミもかうも小どふこぬ人ぬのひ、あどもれき
○一二 セメテカリソメニキヨツトサヘ来テクレス入ヲ 村ニ思アテ居ル
ワシハサア、ラチノアカヌ心チヤ

けひつと称バ多シテ、まきみを川あふ、源ウテ思ひもあ
○ワジガ中ハ水ノナイト云あ、源川ノヤウナモノデ、きるガナケレバ
タゞ立シイコトコソヘサレ 水ノテサツテ源イヤウナヘナイ中チヤニ
ナニシニ末カケテ深ウリシハ思ヒソメタフヤラ

時々の晴乃ちひぐれも、もくがきと思がこぬよハわとぞかとぞかく
○曉ニハ晴ノハ子ガキト云テ 晴ガキツウシゲウ羽タ、キラスル物チヤガ 君ガコス

夜ハソノ鳴ノハ子ガキホドニウ ワジガサイクダトナニタメ息ヲツイテ嘆キテ
レテナリトウのミドリシムルノアリ。おぐとハ、あくの時、百
枚がまの匂がたりていつもの事で、まだ歌をきくもの未だきよ。

ひうづゝ今ハもやや風乃ちも人ほきこんざる。

○一モウハキヒテシウトテヤラニヤ五ラヘゴロハイツカウ

三オトヅレモセヌ

ニテ神小ヤ。此の神のあてもぬハ天がくす。秋やまくす。し
○一ダシノ聲ヨシニテモナイニハヤウニワガ神ニムフツタハ君が心ニ秋ガ
キタカシラヌソデハ神ノヌレタハ後ノシグレヂヤ

山の井があまじんぐも思ひぬか新をうりのと人乃ス。

○ワニハ山ノヰノヤウニ淺イ心ハナニニドウキテ君ハイツデモ新ガリ

足エテヨリツカシヤラヌイヤラ。もかうのとくハ、ばくづふをねま
泡よハわくべかハづくとくものとく。

わくれ草たゞとくゆ一浅きとくのいわくとくゆくさくセバ

○此ヤウニキツウをコトノナリタイモノギヤトニフラトウカラシツタナラ

忘草ノタチヲトツテオカウデアツタモノラリシタラソラ蔵テハヤシテ

け前忘ラワスレルヤウニセウモノ

うきとくとくゆのうきハ、もまえ後吹ふきへやあひきくもむ

○ナンボ忘シウ思ウテ寐テモ夏ニモキウトユル夜ノナイハカノ人ガ

ワシラ忘レタワスレルが夏ノ月マデハシゲツタカシラヌ

多ふどかゆてかくねりゆハあやいを極め人やまく

○夏ニサヘアハレスヤウニナツテキタハワシガ抱足ヒテエ子ムラヌユエカ
又ハ君ガワシラ忘レテ心ガカヨヌノカ 鈴村ヨリ一才丈もろー。

多んぎんは仰

わうこゝも多小えークバをうに只ノぬ中どもあきかうり
○唐ハキツウキイ石チヤトサテ居ルニソレモ夏ニタレバ近イフデアツ
タガトカク唐ヨリモドコヨリモ 売イノハヌ中テサゴサルワイ

そぞのやう

もどりのいわづれゆゑのつみれバをもづればどおひる
○長雨ガフバ フルイ家ノホハクサツテ忍草ガハエシゲルヤウニタツタヒトリ
お忍ヒノシニキナナガメバツカリシテ月日ラオクルワタシナレバ人ヲ忘モ忍ズ心

ノ忍草ガサシゲウナルワイ

傍正遍照

おもとハシモリおきまでうふりとつとみく人をやうとせーやうて
○心ヅヨウテ來モセヌ人ヲ クルカクト待テ居タマニツイ月日ガタツテコ
キノ度ハ景ガアノヤウニシゲツテ 送モナイホドニアレタリイ
今こそもとづひておもてへりとすり思ひくしの袖とのぞき
○子カイヤキニ又來ウトミテ別シテイダ般カラシテ 每日主人ノ子バツカリ
足ヒグラシニクラシテ ヒグラシワクヤウニ オレヤ注テバツカリサ居ル
よし人トモリビ
おもやとはよもあらまござしのなく夕暮ハさちまくれつ

○ナニボ待^シトテ來^カヤ クル^トデハナイトハ 只^ヒナガラモ 夕^{カタ}ヒ
グラシノ鳴クジブシニナレバ 門^{カド}口^{ダウ}へ虫^{ムカシ}テ立^ステ居^リテハ モシモヤト待^ツ心
ガアツテ ドウモ只^ヒ切^ツテハ居ラレヌ
今^ハとヨビか一物^をさく^グふは夜^ハ小^カつもわ^セとたのひ
○カウ久シウ來^カラニハ モウハト思^フテ カオト^シテ氣^ヲクサラシテ居タ
モノラ 蛛^{スズ}ノ糸^ガキルモノ^ヘカ^ルハ 待^ツ人^ノタルシラセ^ギヤトヤラ^ニギヤニヨツ^ニサ
以^まハと^トと思^フりのから^シわまれつゆ^ミくとも^シよやまぬう
○モウホルコトハアルマイト思^ヒナガラ ソレラワスレテハ又シテハ待^ツにガ
ベダニアヤ^ヘヌ^ヘカナサテモ^ク

月夜^よハ^シめ^くま^るか^きく^すり^あも^ゆも^ひび^づも^ゆ
○けヤウニサヤカ十月夜^ニ六^六來^ス人^カモ^シヤ來^モせウカト待^ツテキガモ^ル
イツク^ヘツク^ラニ曇^ツテ雨^ガフリトモス^バヨイニ^{ソシタラツライ}一
ギヤト只^ヒモ^ステシハウニ
うゑて^シホ^レ枯^田から^シで^スと^シば^けと初^冬の^ホシ^ミぞ^おき^め
○五月ノコロけ田ヲ^{ウエ}テオイティダ人ノ^けヤウニモウ^ミ田ヲ^刈ルジ
セツニナル^ニ待^テモ^クワ^セ子^バサ^テモ^クナサケナイ人^カナトオモ^ハ
ハ^シテケサ始メテ雁^ガナイタ^ガソノ^原ノヤウニサワシモナイタ
あぬ人^をヤア^タちの^秋月^ハい^シ小^アけ^バク^シび^カく^シむ
○コヌヲ待^テ居^リ方^方ノ秋風^ハド^ノヤウニ吹^コド^テコホド悲^シツライ^ギヤヤラ

ターラモナリホリカムシのハラハラヒヤミジカツ
○ワニガ思フ人ノ来テキタハイツトデアツタヤラワレカラ一向ニアハズニマク
久シウナツタカナ來モセヌ人ヲ待バサテクルシイ物デサゴザルワイ
ターラモナリホリカムシのハラハラヒヤミジカツ

かのみのわきミ

まみのえはす門わくスボナリモバアトヅの筋よりナリハシ
○ヨヌ人ヲク労クト待テ居ルるニタシナツタバワハ毎日十カヌ日ト云ハナイ
ホクシのねにうひうそはタバクモカムナキ
ホリモバチグヤモモバウシホリモカムナキ

まみのほタマリ

仲努力

タモナリホリカムシのハラハラヒヤミジカツ
○ワタシモモウ京ニ居テモオモ吉ウナイニヨッテ此度大和ヘ下リースルガ三輪
ノ山ホトムライキセト古哥ニヨンデアルヤウニ今カラアノ方デモ
一人ヲ待タトテモ^ミ何年タツトモ^四タレモ尋子テ來テクル人モアル
ヘイト存じスレバトウシテア待^チセテ逢レセウゾイノ

歌トシラビ

ヤ木林院のみと

タモナリホリカムシのハラハラヒヤミジカツ
○アチコキトフキヨウセノ凡カサムサニ萩ノ花ノチツテユクヤウニヨリ
ヘウツ、テユクカア人ノ心が絆哉モウチササトウチ

をのあすち

今ハシテあがめよすくわればあとのをすくふううひふう

○ワレガフルナツタバモウヤトモ古テヘカタオツシヤウタぬ渕木ノ肩
ニテガチガウテ奈ウタワイナ。ぬ雨ハ、さくとソヒヌモノもくう
といもじ料う。ふ秋云けうハニミ一叶と。

うへ

小野しげだ

人を思ふるのをあはうと風のすくちくもみされめ
○人ヲ思フ心が木葉ナラバユソ風ノフクニシタガウテチリミタレモセウ
ケレワレガソナタラ思ウ心ハ木ノ葉ノ風ニキリ乱レルヤウナカル
レイ心デハナケド何リガアツタトテモナシメツタニカハラウソイ
ナシヒのねほきのうつ孫がひすりふさみけと

うちひくのうて志バのあひどむハきくゆ
さうハかくのくールモバムテけくへす
あ戸そのよそふものわくゆくゆとぶめふはくゆう
○夜ノ雲ハ目ニルエルケレ氏をイヨツナ物チヤガオヘモ近ヘハテウドソレ
豆ハ古虫ガアツテサスガ目ニルエハシナカラヨソクシウチツテア
子カラ夜オトマサツテトサルハナイサモキユニセヌナサカタカナ

うへ

わくゆのねほ

ゆきうすアホのうてすかとハモグウノ山の風もやくう
○ワレ雨すニタトヘレタガモドヨイタトキヤモヤノヤウニワシガイタ
キタリバツカリテ足ヲトメズニタテルハ其雲ノカツテ居ル山ノ風が

。春後五

。廿六

ツヨサニトドーヴテ居ルノナラヌヤウチモノデ ワジガカウテ居ルソナタノ
心がニヅクサニ ドウモ夜ルハドーラレスギヤワイン やうハ氣きの極シ。

歌あらへ

かよけとのおやきこと

車名セモバオホシキも先うけてのミヤハシヒトセシ
○キルチハ著ナレバヤハラカニナツテ 身ニヒツタリトツキーヴハレル物ナレハソノ
モリテモナタナラバ 身ニヒタシウコソナラウハズナレソニ訓テカラモヤツリ
ヒヤウニヨツクシウテ ジヤウヂウ心ニカケテモヒラテヅカリ居ヤウトトハ
足ウタフカイ士テカラモヤツハリヒヤウニアラウトハヌハナダ 習てハ衣の極シ

ヒヒのう

秋風ハオトカドヘモぬうねくふくのん乃ミシニナシシ

○秋風ハヤ旁ナドラ吹キルヤウニ 人カラダラ分テ腹ノ内ヘ吹テハ
イルモノデモナイニワジガ足フスノ腹ノ内ハガ風ニ未紫ノ空ヘ毛ルヤウニヨリ
ヘウシタハドウニテヤラ 上ちの絶縁找キサヌともふくろーがの元ドモ
のトカドハオトカドヘモぬうねくふくのん乃ミシニナシシ

源家千鶴子

はまむねくならゆくのえのを秋よりきにのみ朱タリル

○次オニツレナウナツテユク人ノ洞ガサ秋ヨリサキノ葉紫ギヤワインナゼトイフニ
ち方云テオイタフガサツハリカツテヒニウタワサ 木紫ノ色ノヤウニ
ナチモニシテアリツクルあいあうてほゞく人のとハ
クロイキシテカラ
でうちを了りて後どすアリレバトシテは、う

卷之三

乞閱

ちでぬるよもぎてどかうよつてくよりまづあじしきえ
○サキダツテハワタレモワヅラヒニテスデニ死ニスデアワタガウレナイオヘヨリ
先ヘワ六レテノ山ハコエイソト存ジテモ林とホヅテアモドツテ糸タ
あひきよりハシクのやうやくかとかくからけり
小やまとくちけ葉ノハシミをもつて毛ハトリハ

こまくらぎわ

ゆとてかどりくをのゝ淺草か、今、思ひぞれりえけ
○秋モニテ冬ガレニツタセハ火ラツケテヤイテモエル物チヤガテウドモノ
割リテ年ガイテ空ヘ急ノカレバタタキ六今デハモウち絶縁ヒガサ

モエースワイナソーデレ浅芳モ此モリニヤケテシタゴラウジテトサリマセ
トモアリヒタツカム下がりシテシホセウのトモえケ
シバタクモリム
ハセ

みの村のやへと云うが身に思ひとばかえてもちとすこゆしわど
○入ニテラレタワレが身モキホノアノヤセギヤト思フナラアシテ燒
ウニ今コソヒガモエケレボソシテモ又春ニテタナラ芽ガデレテアラウトシテ
春ヲ待ウモノヲワレハモウアノ多枯野トハシガウテモチニタトテモ芽ノ
デルれモナイカチヤワイン 従女シウモスヰリヤウシテタモイノ

おのあきのままでうきかへひきくはれて竹もねまくわ
ととせり

○水ノ沫ノキエルヤウニキエルホドウイ哉オヂヤト呪ヒナガライツモカウ
バカリデモアルイト トダ末ヲ村ミニ忌フテヤツリニア消モゼズニカウニテ
居ルハサテクラチノアカヌ我にカナ。ふ秋云なうへてを。うの様
そめがきと。ハアフリ。

トムイヘラビ

みあせ川方でゆくあたぐハトヒひふあさとだぬとやハ先
○水を川ニ有テ流しに水ガナイラバコリワガキラトヲく切シテレ
一ウトハ思ハウフナレ 水ノナイト云名ノ水を川サヤツリムアツテ流レ
ルナバ あ中モ絶タヤウナドヤツハリ強ハミテタキリヤヌモアラウワ
マのちこぎ中をとよざきと。オをとよざはがいきぐん。
オを小川の水脈をかひく。サ

みつね

○入ノツライハ 一 ハテゼヒガナイ 人コツワラカラウケレ オレハカタニテオ
イタコトハイツデモワスレイト足フ もやくハモモ門の跡。

トムイヘラビ

そ中れ人のむハ花を失はれうひやまじ色ふを有リ
○世中ノ入心ト云モハテウド花はノ色デ カリヤスイわデサゴザルワイ
あらこそうてかくソ候をあざづくつもをかすめや
○ウタニヤ人ヲ足ヨキ心ガサニライヤツギヤワイ ヨキカラ足ハズバサキノ心
カルモ惜カラウカイ 人心カルガツライモ ユチカラ足フユキヤワイ

おとハツモトガルミトニヤウカハ、あつきてひア泡うり。

こやうち

危スモでうつうものとよの中ばくのんわ、おひき行くノ
○草ヤ木ノ花ハ色ガアルユエニウロウヂヤガ 色ハアルトモヌエズニウ
ワリカハルモノハ世ノ中ノ入ハナドシイ心ノ花デサコザリースワイ
危スモでハ、そのなまきばりそ。修哉、初ニものほそくー

よそ人ちくも

おのとやそばうぐひもとおきこびそ人のんをくちりみバ
○花ノチワテニウタヤウニ五ワソウ入ハ心ガカラテ イイテニウタナラバウイ
「ヤウライ」ヤトヌフテ 相手ナニワントリシムノヤウニ注テ居ニデアラウカ三
二

そと男女のろとひ。お笑下向とくのむけ花ととりふ
ちりみとくわくがまわー、花とハ、おめくふといんがゆし。
まとのとー、あるじ。おれもあきらぎんの涙小注テ居ルデアラウカと
おへよふ、ワライコトヤトヌフテ一おれもあ
あれうげれぐひ行きー、ごとくべー。

よそ人ちくも

おもよそとかもねそ人をいとすむあいだちりめんとくとそえあ

○イカホド珍念ニ足フメトキテモ 心ガハツテトホイテテラスバナニトセウゾドウモ
セウゾガナイスヤベダヌタラヌウチ草ウキタ花ギヤトサヌウテ居ヤウニテ

よそ人ちくも

今ハとて夫がかきれバねやどん花を、巴をくも見てやあおもむ

○モウユギリトヌフテ 君ガトホノイテヌヤウニナツタナラ ヌチノミナ
花ヲバワシヒトリガヌテ 君ノヨラライローツヌヒダスデアラウカ

む林やじの胡弓

志まかきもやまくとつまもれき人のふあハおうう

○人ノワシラ忘レタリスレヌモ枯テモシヌモトノヤウニヌフテクルテモアラウ
カトヌヘワシラワスレタツシナイ人ノ心ヘヌガオケバヨイテヌハレルヌデ
ハフウタイヌガ枯ルモノナバ モワシラ忘レタ忘ヌノカレルヤウニサ

空をゆゆ時古屏風ノリナキセ候ひソメヨヌ

うれしきは

させいもー

コヨヒタ候お行をうめ候く思ひハヅレ候きくのむがりり

○ワスレ草ト云ぬハ 行ラタ子ニシテハエルコトカトヌフタガフノタ子ハ ウレナ
イ人ノ心ギヤワインハテツナニ心カラシテ入ラバ忘ルモノギヤワサ
歌ノ歌

歌の圓けりよてよやくとかをよく小ほをりしとくのかくも

○一ワニガキラウテモウイ子ト云詞ラカケキモナイニ入ハセヤウニキノイテ
来ヌハ 何ラウイトヌウテノテヤラ カナセラ皆極の極の絶

まのほーゆき

初乃れうじそゆどよのやれ人乃ニテあま歌ーうけむバ

○人ノ心ノ林ガウイニワニハキラワタレ初乃ノヤウニ泣テヤタルワイ
よみくちく

うりとくしともわを思ひてみどり波のへとなづるじ
○おラアハレト只フ内モウイト只フ内モトカク海ガホロクホロク
トコボルナゼニハヤウニ海ガ^五インガシウコボルヲヤラ
錦我キサドモホレバ^ノトキほん。

おをうへと思ふときとあらばかくともぬきふとみ
○キツウオヲウイト只ウニ六金モ消^{サウニ}恩ハルケレバ^ソモサスガキエヌ
モノヂヤス^カ此ヤウニウイタデモヤツハリソチリニタテラ世デサザルワイノ
典侍藤原直子^{ノホイコノ}おれ

のまのかく簾よもじいはあがくとふとこそおめせとばほじ
○あす丸簾中ニワレカラト云虫が往^{サル}おギトキ^{トキ}ヤガ^モ虫^ノ名
うるやうりん

あひえぬも^ノにもあけ^ノえひ^ノびと^ノく^ノむ^ノ
○キタイ人ニアレスノモミズノワライモミニナあカラノチヤスナ
ドレホド足タテアヘル^トデハナイ^ハヤウニト姫ノトケルサテモ^アア
ガテンワリイト姫カナト^ノものと^ノハ^ノよ^ノべ^ノき^ノ。

いふぞ

寛平時ときさのまがき合ひう そぞれもあん

はもがまく今ハシンドと思ふどもむよもくとちかうねご

○ツナイ人ラモウエヌフライゾトタシヌテドモナントゾスルトロ

ダシテ滅ガコボレ サテモくアハヨワイカナ

歌あいび

序勢

人をもぐもえぬよ一うがくびつもおきぬぞとだふくとあと
○シドウセラヘシズニ絶名中デアラウナラ 絶ルハツライナガラモセイテ
チヤト云テセソテハキ名ノ立ヌヤウニナリ丘セウモノラ ワ方中ハヤ昔久人
モ知テ居レバ 王イタギキ丘ハ子バ 絶タガカリカウキ名サヘ立テ サテモ
サテモソイワラナツライカナ。秋えとべてきわとくううハ比澤のとく。
お月くとくとくううとくう

よみ人ト

よみ人ト とく
よみ人ト とく
○人ヲ源ウ口フ時ニハ ま人ノ家ナリ此タイヤウニ豆ウモヂヤガ サワツ子ぐ
足フテ居リトテヒヨウトシタ洞ハシニモ ワニガホラアタトキモ 人ノ少トコ
ロテ安玄テハナイゾヤ エテハツシナカラシレルモノナヤ けうばあにへま
えふ行いび。おとと海村ハ、おととおみづして、おのと小とづく。
此系ナムむくに、おとく、おとくおみづして、おのと小とづく。
ゆきのわくとく、おとく、おとくおみづして、おのと小とづく。

○自由ニアハレル時ハ 志ナイト云ハドノヤウナモノヤラシラナジダニ 今カウキ
ト絶テアハヌ時キニナウテハジメテ人ノ志ナイモ知タワイ

うひもうるまぐのからへおきづとまよほうあくま
○けやうニミニアグミハテタヒモニサヘミ人ヲヤカリイトイシイミシト只
ウテ海ノヨレルハドコガミシウテノイヤラ けやうニウイツライメニアハスル
人ナビイトシイモミシイモナイハズチヤニ けうれしきハいし
やくく身よまときて三のものと、もとがほといつ泡ととだがひふ
おもじてらむ。ちすふをびよ海のちうんとらはたぐ

おゑ、おきうぞ

ねくもねくても以もひかごどろき薄ふみゆのれきうべーと
○ウランデモ泣テモカキニサバ^ハ相手ニシテイハウブ只人公モヤ迄テ面
ニアウモナセバ後ヘ立ルオレガ新テナウテハ外ニおもニシテム、ウハナイ

よみ人きうぞ

タキモバくうじとくばくうちひ歌うひもくうめのまう
○ユラカタニチレバ君ガキテ、寐モセヌ床ヲハラウテ、独リ子ルトテハ、イツ夜テヒ
イツノ夜テモ ワライヘヤト母フテタメイキラシイテ子ルチャガワムアヒヤウニ
ワライ歌キラセウタニ生^ステキタカヤ サテモ^クイニダナオカナ
うづこのまうてゐと立テ、門のまもとよつゝみつう
○サハリ施テニウタ中ギヤニ^ミえ心カハタフ^ミ又ヒツカ^ミシテヒヤウニ^ミ
メシウタフワイン今サラ昭^ミトテナソセガアラウブサテモ^クチナワガ心
け^ク小田とわ^クまとうしか^クてモノの心残^クて^ク心やまう
○アラ田ヲ行^クベニモ^クスキカ^ミスヤウニ^ミアハベニモ人ノ心ヲクリト

ヨウカシガヘテアヌテコワ モウラチアカヌトニハ定メウチナレ

あくそあ乃もあはさきがとれめへ、あくそとのぬうごとく

○浪ノ真砂ノ板ハヨミツストムテモ、ふゑハヨシデモ、ツキイナド、
ギヤウサンニエテ、ワシラヨロコバシテオイタソノ浪ノサゴノカズハ、ミヅクサ
イフノケシカラヌタトヘデサアツタワイ

ゆべりまのとき、ゆくらのいやとやざうるみかねすとも

○芦原カラネラサシテゾトモデユクモノダンクトキウナルヤウニ
ダンクト足フ人ノトホノイテユクワジガヨハ、アカナレイチヂヤ
キヅキつゝもみづくらもみれ紫乃の村よけみどりびき
○時あがフリ、シテ木葉ノ色ノカハウテユク秋ノヨロハツライモノデヤ

ソレヨリハ云テオイタ洞ノカル人心ノ秋ニアウラガサナホツライ
秋風のあまく吟めむむき、やハラズ、葉の色からうるそ
○秋風ガフキサースレバ、アノ廣イ武彦聖テモヤハサツツリミナ草ノ
色ガカハツテ枯ルワイ、人心モソトホリサ、解林ノボル

小町

秋風小行よたのこそをかみ、リ縄立がくむくおりぬ
○秋ノ大風ニアウ稻ハサキノドクナモノチヤ、石壁ノれミニシテ居ル田ガ
サリハニヒニナルワジガ中モテウドソシナむテ、人秋風ガフイテ
歌ニ思アタシガ、皆ムダニツタト足バサ^ニカナシイワイノ
もの、田の空ふくせり、きてにのち、あめひすくとづけ

て、少くとも、ああ、結構かよ。ひまぐれのまゝがねり。

卷之三

秋風乃あきづがまくさの葉は風すてもれやうめに
○上ウテモラヌテモダヤツリ昭三ガハヌサテモウラメキカナ
よみ人うめ

○秋トニテヲバヨソノイノヤウニサヌウテ居タガヨソノナデハナイウリキナ
人ノワシラ又捨タノガワシラアキト云モノデモ名デサゴザルワイノ
コトナシ向く又城うちちのゆゑてノ下かよしぬ年ぞアリシム
○テウド禍ノ中ガキテアレバ後ル人モナイヤウニスラ人ニ忘レタ身ハウイ

モノデ う年カモウ子カニフ使モコヌワ五
又モコヌワ四。よおえでのもくりかよソドト
ツベキバヤモクキニヤ

あよ。成り立つてこそひゆくまふ年ぞふる
○をすモナイニヤツ、リおかラズモシタウテ月日ラオクル内ニサハイ。年カ立ツ
タウイヌハアミタイクトロフテモシタウテ月日ラオクル内ニサ。よ秋えほの譯
タウイヌハアミタイクトロフテモシタウテ月日ラオクル内ニサ。のとみきバ。を
タウイヌハアミタイクトロフテモシタウテ月日ラオクル内ニサ。のとみきバ。を

○セテ又未テナリトヨガミサヘナイワニガヤウチウイヌハイウソノ水ウキナ

カラ消ル沫ノヤウニキエテミイナリモスレヨイ。○秋云。れねぐ。憂き事
カ。

よみ人あらば

湯毛とハいわせの山乃中よ處すすせの門ひよりやすのや
○紀ノ國ノ妹山トせ山トノカラザヘ吉田門が流レテ來テ 中ノダテガ
アレカラハソウタイ人間ノ男女モイツデモ始メノヤウニテシウハナイズ
イデ久シウナレバオノツカラカレコレが出来テクルノモノズノテヤ
ハテセヒガナイ山デサヘサウギヤモノ その中ハ男女の中とい
てすこしうぐ男女のねづひをせてもその中ともひ
てすく多く、うなぐくでし。

古今和歌集、巻第十九を總

哀傷歌

いかうやれば身まかりきるめよと見る

小野のみゆの相見

ちく波みくゆ

ミセウグ

めぞうりのあまうりをくすりすがく

○雨ガラキラ

ミセウグ

三途川ノあがですアラウコシタラ妹ガヨウラズニユ

此世へ戻テクルトモアラウフタメニ

がふ一はオレガ泣涙ガドウブ雨ノ聲ニラボイ

送葬

ヨウ

まじのふりきおれいすうちぎこえぬ白門の門ひりふ

らくつときの唐子みくす

ヨウ

そせんほ師

ちの城おらてぞたぎつ

ヨウ

ア門ハ東うよすでのうすとみる

○け川ミノ名ラ白川ト云ハレは後オカクレナセタ良房公様四ノ在世ギリノサ
名デアツタウイハ殿マツカクニサレタレハ懲シサニ独僧マツカガ泣クマツカけ赤川カイナ
血マツカノ涙マツカガサワサト流マツカルスレヤモウ白川マツカテハナイ赤川カキヤ

ほアノはのるもキマツカおあくまうち秀みマツカきうりふりふり小
ぬうくまは山マツカ不マツカをきくそマツカりうらはよよみをく

京都勝延

○蝉ハカララヌギスマツカテオイテドコヘカインデシマウマツカキヤガソレモノマツカニテガラ、
イツマツカテモマツカリテアルニ人マツカ死ヌトソマツカ、ヌクガラサマツカヘ焼マツカテシマウマツカテ跡マツカヘ
シテハオカヌモマツカテ此基於マツカニ様モマツカリ筋マツカサヘノコラヌマツカハサテマツカオノコリオホ

イヘヂヤセメテツノ山火葬マツカノ煙ナリ田マツカリテアレハ除幕マツカノ山ヨフニタ
ラフコラヌテナリ凡マツカす筋マツカナゴリギヤト足アフテ少シハカナサラハラサウニ
なぐさウマツカリテマツカ、様マツカの方にマツカとマツカもマツカハ様マツカよマツカからん様マツカハ
かマツカとマツカてなぐさりマツカす。すほマツカは背マツカと小マツカて、そめとマツカてお
行きマツカんマツカとマツカもマツカうとマツカ上マツカひてマツカく御マツカうせマツカりマツカのマツカおマツカハマツカ
がマツカくマツカかマツカきるマツカけをマツカうでマツカまマツカとマツカくマツカわマツカくマツカべマツカ。

クジツマツカのみマツカを

浦マツカおマツカせマツカの様マツカ一マツカりあマツカバマツカトマツカ、
○はな基マツカスララサマツカシタマツカは源マツカ某マツカノ地マツカ心マツカアレナラ今年マツカガリハ
豪深マツカ色マツカサケサ全モマツカ豪深マツカノ服マツカラキテ居ル春マツカギヤニ

藤ふ敏り、新ほの才ありからず聞かずみてかのあ

小ちうべけ。

きのととつも

絶てもえあゆてもえどもとぞうつせこのよそ夏ふさけ

○はだノソモトノ不幸ニライテ ヨウスウテズレバ 夏ト云モノハ子ム

ツテ居テモスルモノナリ 又麻イデモスルモノゴザルワイ げ人間ノ

せガサ ソウタニミナ夏テゴザルワイ スヤ麻イデモスルダヤワサ

アミ敏り又ノサマニコトニ夏ノヤウニ存ジテス

ひひきりまくのみよかりふればとも

きむけ申き

夏トソウベリモ季節ふうてわすれそひけふか那

○世中ラバンウタイ皆夏トサニ、ウチヂヤワイ フニ今テハ 正まノ
コトガアルモノヂヤトヌフテ居タハサテモアハウナーカナ
あひきわくらんノヨリまくろけくめふくろ

みよのたゞこ絃

○子ムワテ居ルウチニえル夏バカリラ夏トニ、ウチカイ フジカリテ、ナリ
フタタケヒキタナヨノ中モ正まノトハ只ハヌニナ夏ヂヤ

ひひのみよかりふる吟よかく

○川浦ラ ヒガラミテセキトシバ流レテユク永テモ 圖ニツテトドレ

チヤワイ フレニサ死ニデユク人ヲセキトイルシガラミハナイ

友ホシモ燐ノ火もあひもとてゆくのめぬりふ

ソシテホシムシキモトトモ

開院

まくらぬくのやうびうきハシムトモのうすこぬあり
○人ノ死ヌハテウド流テユカリ水トオリテニタビ返ツテケルトキナ
此度ムナサブヤカ彦古推量ヤシタワタニモハチニカヲ落ニテ
サキ^{アキ}早ウ死ニタラヨカワタニカウニテ生^{イキ}アラリスノガ晦シウテ イリカヘシ
カナシハ^{アキ}ヒタノウデゴザリス 先ヘ死ニシナラヨシナハウケタニハル
トイモノ 餌我ササシホガラシビ^{ヤハシビ}ミのタガモリヒトヒタの物
エヒトトキナシテ啼^ヒシテアタシのとモアシキテバナシ

高きとつて後ハタタキ^カれ。物^ハかわ^カれ泡^ハあ^ハ
絶^ハ別^ハお^ハりふ^ハ時^モも

ほゆき

あそ^ハぬ事^ハと^ハど^ハぬま^ハ人^ハと^ハかる^ハる^モれ
○あ^ハモ^ハシ^ハヌトハ^ハド^ハダ暮^テ明日ニナラヌ今日ノウチハ
ニアオレハカウニテ^ハフテ居^ハバ 人^ハ死ニダノガサカナシイワイ

あみゆ

即^ハあ^ハの^ハ人の^ハか^ハき^ハわ^ハと^ハア^ハシ^ハき^ハの^ハ线
○即^ハモアラウニ秋ノ^ハシ^ハスノ死ナウ^ハカイ 秋ハ^ハカナシイ時
ミ^ハナシバ 生^ハアルラズ^ハテサ^ハ ナツカシウ^ハレルニマア

ノ忌中
そくが写しよてよめよ

久の因みつ

かみる月あぐとふぬうりみぢ紫シシハだまひのたすくさりり

○は十月ヒタチニヌレタお葉ハラフバトント悲シイノアル者ノ袖キヤワ

イ今度毎候六ナーテカナシサニ 血液クエキヲ流スルテヌルミガ袖トアノ

おはト 色モヌレタヤウスモ トツトオニナシトヂヤ

ちが思ひよてよめよ

あぢまも

ぬぢ衣ウヂイもつしゑハうびのれまとの玉のをとぞ形りけり

○ワジガ今服ヒタチデ着テ居ルキルモノ、ハツニテ糸ヨリル系スルハ後アヒ玉ラツナグ緒ニヤ
ナルワタシテウド玉ねタマネボシガハシレタ系スルカルハ玉ラツナグヤウニスエテサ

ロハ小けりに秋ハシマカケマカケケ。遙ハシマカケケ。遠ハシマカケケ。遙ハシマカケケ。

つぶゆき

初歩のおくでの山田がももふうによの中ハおとひめハよ

○一二 今もハ先ハシ中ハシノウイハシヤトキラタハシウカハシトカリソメニ豆ハシラテ

居タハシカナ 今及不辛ハシラウテ 壁中ハシノウイハシラ 実ニ只ヒシツタ

ありひよけりハシ人ハシをとハシひハシくハシうハシてよめよ

トドミ給

五度處ハシの男ハシがたりハシモももれやハシモ也ハシ五ハシとのハシゆ

○半秋キテゴザル服ハシ其袖ハ雲ハシチヤカシテ 俊ハシが絶ハシビタモハシ雨ハシキウニラリース
妻ハシ親ハシ急ハシ中ハシデハシヨニ人ハシが
めハシおやの足ハシひハシてハシ小ハシちハシけりハシとハシくハシのハシすハシひ

ほハシせりハシれハシすハシ小ハシ脚ハシよハシ今ハシくハシべ

あ
レ
シ
キ
の
山
ノ
下
今
ハ
ま
と
は
の
池
乃
ひ
ト
モ
カ

○私モモウハヤ 吕々ハ出サ及ビノモリ 山ニ住ハシメシテ 泣テバカリ
ラリースレバ 服ノ袖ノカワキースヒモゴサリセヌ

詠雪はモードのやうりの事と云てよし

たものね

きの面よさぐるもの毛さやふも毛うみをのむやゆうがま
○アノ池ノ水ヘウツタ花ノ彩ノヅキリト足元ヤウニ 崩落ナツク君ノ山都
ガアリクトアラガニヤウニ豆ガルトカナ もぐくわの水の中小豆や
トムヘ万葉小豆トモうどりと考へて却し。極と或ハ流はべと
りひ或ハ流ぐとひが葉ひとく。豆葉ふすわよ流とがけとじらの

あ
レ
ハ
情
う
て
ち
う
ゆ
だ
れ
い
と
き
く
と
い
て
と
ほ
し

ゆ
ま
の
み
か
づ
の
ま
思
ひ
る
文
化
や
ま
ひ
で

ま
う
れ
ま
の
み
か
づ
の
ま
思
ひ
る
文
化
や
ま
ひ
で

○サイチウト照ル日申ノ日カ ホイ度ニカケテ ニカニ写ウナツタヤウニ
先帝様ハ^四ダサカリノ御年デ 俄ニ崩はナツテ あノホイホイホホホ
谷ヲサメキツタガ ホドナウレ一周忌ニツテ 今日ハ其奉年ノ崩御ノ

旱テハナイカタ一ア アニモ時ハ悲レイテアツタガ 去年ノケフ
テアツタスヘバ又モ時モヤウニ思ハニテサテモカナレイテヂヤ

ゆ
ま
の
み
か
づ
の
ま
思
ひ
る
文
化
や
ま
ひ
で

ま
う
れ
ま
の
み
か
づ
の
ま
思
ひ
る
文
化
や
ま
ひ
で

モーもひきのよのがりてからおりてりるゝもの
又のとーみゆく人びくぬきてらふからすむをうどよ
ウジリ候まつり 傍に遍ら

ムキハ花の衣よめぬきりこけのありしよかとくいふをよ
○世ろ久人皆は笑ひモヤの服ヲヌイデ 花やか十衣チツタチヤガ あらシニ
花ノ衣ドヨロデナイで今ニ後ラコボニテ泣テバカリ居バ セメテハ後ニヌ
レタ昔ノ衣ノ袖ヨカワキナリ庄セイサ 人ハ二十衣ニサヘナツラチヤニ
河原のわらはまうち天のゆりての秋うれあわくと
まがりにわ葉の色すど津くもかくさうけとくとれ
あふまみてはだり 近近左のわらはまうちぎ

うちつをふらび くもあらりぬぢ常もぬしきく宿、色ゆくは
○亭主ガナクナラレタバ 庭ノ紅葉サヘ ホツコリトタ色ガナリワイ ソレ
主はあ葉ラスニタバ 俄ニアドウヤラヒシヌガサビシウ思ハル、ツカナ
着ふたう候のねのみまうての又比の友新の写
クリ成キシトトモ

ほくぎんけくかく都ふかくわげば考ふられ 紫ふだりき
○ケサ敷スノナク声ニビクリテ目ガサシテ忍フテ尼ハアモウ
郭公ガナケバ 去年君ニハナタ時キテサオギヤルワイ
様とうちくくろり小やく花きぬすくゆり
みうゑりくあめりふり絃をきの花を見てよ

きのむちゆき

まちももくもくとほんかくふくれいづきをまくふゑひとくら
○橋をハキツク早ウホテ分ナキセヂヤガソレヨリサキヘウエタ入ガサハカナウホタワイ
ア、セミナ世中チヤ花トスドキラカサキアダニツテホニアラウトモツタ
ヒヤウニ花ヨリサキヘウエタ入ガアグニツテホニアラウトサクヘヌモ只六ナダツキヤ
あドミナクハケノのおけ梅花をみてよまうる

ほしゆき

名も魚もむがーのこまく小身アシギモ植リモノ新ぞ
○ヒ梅ノモラユバ色モ香モヘカタノ濃サニカハズ同ジヤウニ^{ツクシ}テユコトナレ
ドモ今年ハウエタ亭主ガ居ラレヌユ^トヒ花ラアルニツケテモウエ

テヒサウラタ亭主ノ面影ガサホシイ

阿原の庵のあらまちそめぬりてはうはあ
小すかりてヨリノにちやがゆとりふきうのき戸
をほくきうりゆどふくくもる

君おさくゼリム^ム施少^シ一^イ柱^ツのうらじぐくもくくもくく
○君ノゴザナサヌデ^ヌ施モヤカ子^ハ烟ノタニシウタヒホガノ浦^ハカウ
ヌワタレクトコロガニア^アおガナレウサビニウヌエル^トカナ

おがソのとーりとの船匠乃右近^カ乃右近^カモ^トト^ト仕
リ^トさ^シオ^マか^クて後^ハも^モみ^ミぞ^シく^フけ^ム小
秋の夜ぬけて物^トりや^シできりつ^トひ^トふ^スれ^ルき

きをうけとひそかにさんざんあらわしき
二カタ自公モ
をうそてもやくそいふけり続ばむ
ひおかひしやま
てよみゆき

卷之二

みちのくあさきを

あぐうち一むきにほのうちあがきせてもめうかか
（君ノウエテオカセラタタツタムラノ尊がレゲウナリテ キノゲウナク

野ニテアリタクナカヌアレヤウカナ

うとあらみあちのけうりじはまうり
ヨヌセヨト
どもとあひれバかきてむくらを

かぐりけは
ゆめのひ

卷之三

○ 我父ハトテモ死ナレ、ナラバヨシテオカニタキテモ、ミナイツシヨニイツ
ソ消テエニヘヨリニナ六十九ニヒテガルツテアツテ、跡ガアレバ一ホ
足ヒダサレテイヨクカナレサガースワイ

歌
よみがえり

なれ人のやうにうよじ新之かきくらはのとつをみむ
○郎公ハ死シダ入ノ居ル所ヘカヨフキチヤトニテヤガイヨクサウナ
ラバコレヤ郎公ヨオレガジヤウギウヲフテ泣テバツカリ居ルトキヲアチテ
ヘラテクカンスウナヒ、イニシテ

一云三
二云五
三云七
四云九
五云十一
六云十三
七云十五
八云十七
九云十九
十云二十
十一云二十二
十二云二十四
十三云二十五
十四云二十七
十五云二十九
十六云三十
十七云三十二
十八云三十四
十九云三十六
二十云三十八
二十一云四十
二十二云四十二
二十三云四十四
二十四云四十六
二十五云四十八
二十六云五十
二十七云五十二
二十八云五十四
二十九云五十六
三十云五十八
三十一云六十
三十二云六十二
三十三云六十四
三十四云六十六
三十五云六十八
三十六云七十
三十七云七十二
三十八云七十四
三十九云七十六
四十云七十八
四十一云八十
四十二云八十二
四十三云八十四
四十四云八十六
四十五云八十八
四十六云九十
四十七云一百

モヤク
三四
ハヤ今デハ 里キイヤシノヤウニキツテシドウタ物ヲ 花ガ咲タトテタガアニヤウフ

1

おゆ小三のものと火薺のりすふよをたりとあくはうらー

モトタエヌカモ
或ひてこそ、宗流のまゝにふたりもといへどく
もううで、其のゆきやうりからむらがみのをこころ

水のうひのむらふあまとゆくはりこめりけととくとく

かゞくふあとされぬあづのあとあもれてもえよ

（中略）
テニシカノヤニテワタシカノヤニセスモナラ、山ノタチノス事ア
レトハ忍ムテゴラウジテトサリ、セ シノ庵ガワタシガ煙ニナリ、シタシ、ユカリ
テゴサリスルホドニ あず・かどく・小のにづく。

他玉一
をとひのりあまかうひまふかくひやまひ
とひてゆきよきゆきめりにけつめよみおきてみまか
まふひ

○ 返付系へカヘリナサツタラ ワタハモウ今度死ニテウテ 居モセヌ床ヘ
オヒトリサビシウキヨシ寝ナルデアラウト 存ジスバ オニノアキラサヘエキカズニ
ワカレテ死ニスルワタシガ魂ヨリモ オニヘガサワシヤ方イトニイ

やまむかさづひはる秋まちのあのもと
くわがえりんばくみて人のわざにつくやき

大江里

○孝陵五

〇四十六

りみぢ事と凡ふよせて見るよりももろうきのハ余きり

○お紫ラ風ノフクナリニシテオイテ元ヨリモ でダハカナイ わハワシ
ガ今テコサルワイ モウくカウヤス今モシレセヌ

○ヒゴロホラハカナイ わナヤトハナゼ忌フタツヤラ ハカナイハホバカリテハナイ

サウ忌フタオレガ身モ あノヤウニホホニオカヌト云ハカリテコソアレ 今

消ウモシレ子バ あトナニモカハルトハナイ
と

やまむじてようちなりふりぬよす

ナリひのねに

ほのゆくそくはよて半一かど飛りりとハありとさりしを

○死ニテ方道ハタニモ イワヅハゼヒニクニギヤトニハ カ子グアテ居テ
ヨウガテシテ居タケレビ ンデモヤウニモウ今日カ昨日ユカウトハ六ナタニ
ハヤミハシガキタツテ死ナチガラスカヤ。ナ秋云い。傷佛る。の。よ。と
ハのありのすれ。すみゆく。きく。このい。く。り。あ。く。き。ふ。
あ。き。こ。と。咲。な。し。こ。も。と。全。ま。の。古。の。と。か。て。人の。あ。ん。な。う。

かひのあわひそりて仰ぐ人モアリもとすすかうら
送ふるかくふもくやましをといふくとおりふりき
もすみてゑふとゆうてゆふとよとつひて人
はけ仰ぐる

ありりせをげも

かひのゆきひぢとぞ口ひて今、うむとのかどきり

○甲斐^{ミサキ}より來ル^{シテ}旅^ツヲ ツイカリフメナ往来^{ドヤト}サ存^{ジテ} 公^ヒ_ニ
モリマシタガ^{ミサカ} モハヤ^ハ此世ノイト^{ゴヒノ}門^ミサリマタワイ^モ

を後^{アシ}みの^{シテ}行^{ハシ}ゆ

